

平成 1 6 年度

第 1 回 水源林造成事業期中評価委員会

議 事 録

平成 1 6 年 4 月 2 2 日（木）

於 都道府県会館

林 野 庁

1 期中評価委員会出席者

(1) 評価委員

岡田 秀二	岩手大学農学部教授
河原 輝彦	東京農業大学地域環境科学部教授
栗原 慶子	全国林業研究グループ連絡協議会女性会議代表
谷本 丈夫	宇都宮大学農学部教授
眞板 秀二	筑波大学農林工学系助教授

(2) 林野庁

沼田 正俊	整備課長
瀬戸 宣久	整備課監査官

(3) 独立行政法人緑資源機構

日高 照利	森林業務担当理事
高木 宗男	森林業務部長

2 議 事

- ・ 今年度の委員会の開催の予定について説明

[意見交換]

○事務局

8月末を目途に評価結果をとりまとめることとしており、7月末までに、3回の委員会を開催するとともに、現地調査及び地元意見聴取を行い、委員会としての結論をいただいております。

○委員

事務局から説明のあった委員会の開催の予定についてはいかがか。

○委員

(異議なし)

- ・ 資料4 - 1 ~ 4 - 49により期中評価実施地区の状況について説明。

[意見交換]

○委員

水源林造成事業の期中評価に携わるのは初めてなので伺うが、広葉樹林化している林分について10%という基準で説明いただいたが、水源林であれば広葉樹

林化していてもいいのではないか。

○事務局

正に、そこは、一昨年、昨年とご議論いただいたところ。植栽した樹種を育成していく当初の計画に対し、一部広葉樹が入ってきた場合等について、水源かん養機能の発揮上問題がないかどうかを、事例調査や現地調査等を通じてご議論いただき、最終的な評価をしていただいた。

○委員

地区毎に生育が遅れている林分や広葉樹化している林分が10%ある、20%ある等説明いただいたが、頻度はどのようになっているのか。地区全体でこのような林分が10%ある場合、地区内の契約地単位で見れば、どの契約地も平均的に10%程度このような林分があるのか、それとも、気候的な問題がある、雪崩が起きやすい地形である等により特定の契約地に集中しているのか。

例えば、雪崩斜面だとか、標高が高く方向性がちぐはぐなところを、平らだからと思って植えてみたが、卓越風などによりほとんど折れてしまって育たないところはあると思う。そういうところは、10ヘクタールのうち8ヘクタールぐらい広葉樹化等して、そのような林分の割合は80%となるが、地区全体では平均して10%になるようなことがあり得るのではないか。

○事務局

例えば、東北北海道の昭和39年度契約地では、調査面積が3,743ヘクタール、そのうち生育が遅れている林分及び広葉樹化している林分が495ヘクタールあり、そのような林分の割合が全体としては13%となっている。ある契約地ではもう少し大きな率かもしれないし、逆に小さい率の契約地もあると思う。地域や植栽年度等によっても異なってくると考えられる。

○委員

それを具体的に検証できないか。どこかの地区を対象にモデル的に検証するのでもよい。

平均値の比較も大事であるが、部分的には、到底成林は見込めず撤退した方がよい、色々な社会条件から頑張っても何とかしなければならない等の判断をせざるを得なくなるようなことも予想される。その際、このような分析資料が必要ではないかと考える。

ある特定の箇所に集中していることだとすると、その箇所は予見しなかった事態になっている一方、ほかのところはうまくいっているということになる。全ての箇所が同じような条件ではない。それが私たちの仕事の一番の特徴である。せっかくこれだけの資料を作成いただいているのであるから、その辺りまで踏み込

んだ分析を、特定の地区でいいので検討していただければありがたい。

○事務局

集まっているデータで、どこまでそのような分析ができ、どのようなものをお示しできるのか、勉強させていただきたい。

○委員

大まかに、「ある程度集中している。」、「だいたい同じような割合で条件の悪いところが出てくる。」ぐらいでも、かなり参考になると思う。仮に、集中している場合には、今後の造林地の選択に当たってのチェックに活用できると考える。昨年か一昨年も、北西斜面で雪崩が起きそうな箇所植えて、広葉樹化している林分の写真を見せてもらったが、ああいうところだと、なかなか植栽樹種による成林は難しい。

○事務局

せっかく、緑資源機構の皆さんに現地で苦労して調査等を行っていただいているので、それを今後の施業にうまくフィードバックできるようにすることが重要と認識している。どこまで分析できるか勉強してみる。

○委員

ここは植えても成林しないということがはっきりしていれば、造林地所有者も納得すると思う。ただ、現地の方は、植えた木がちゃんと育つかどうかをある程度知っていると思う。自分の地域でも、昔の人が足場を掛けて植えた箇所が崩れたりして、そこに植えるか植えないかを悩んでいる人がかなりいる。その辺りが明確に分かった方がいいと思う。

○委員

補植の話もあったが、被害の原因として雪害というのが多くなっている。雪害を受けたということは、先程のお話にもあったとおり、そのような可能性が高いところはかなり含まれているということなので、補植の際、現地の状況を見極めて工夫すれば良いのではないかと考える。

○事務局

水源林造成事業の期中評価は平成14年度から行っているが、委員会において、例えば、下刈において、植栽木の生育がよくなく、多少広葉樹が入っているようなところは、無理に下刈をするのではなく、広葉樹を育てるようにする、雪害により被害を受けた箇所、恒常的に雪害が発生する恐れが高いところは、何回も補植を行わず、広葉樹を育てるようにする等のご指摘をいただいたところである。

このようなご指摘を踏まえ、造林者が施業の実施計画を立て機構に承認申請してきた際にチェックするチェックリストというものを作って、実際の施業に反映させているところである。

チェックリストを活用した平成14年度期中評価結果の平成15年度の事業実行への反映状況については、次回説明させていただきたいと考えている。

○委員

資料4-17の6ページにあるとおり、昨年度の委員会での意見を踏まえ、全林分と契約後3カ年以内に植栽した林分の生育状況を示していただいているが、例えば、スギの全林分を見ると、樹高が10メートルから24メートルの平均14メートル、胸高直径が9センチから40センチの平均18センチとなっている。このような中で、平均値をもとに生育状況に対応する地位を4等地としている。樹高が24メートル、胸高直径が40センチであれば、地位指数でいうと1等地以上の場所になる。成長が良すぎて本数的に混みすぎていれば胸高直径は小さくなってしまおうと思うし、本数が適切に調整された上で胸高直径が40センチだとすると相当良い山ということになる。水源林造成事業は水源のかん養を主目的としつつも、分収造林方式で行っており、収益につながる森林造成も求められると思う。生育の良い林分もある中で、生育状況の平均値に対応する地位だけしか示さないと、誤解を与える恐れがあるのではないか。

○事務局

そもそも、水源林造成事業の対象地は、散生地、無立木地、粗悪林相地等の余りいい場所ではないということがあり、地位は相対的に低くなると思う。

また、本事業の期中評価を始めるときの議論において、地域別・契約年度別の集合体としての「地区」を単位として、まず平均値的な姿を概観し、特に重点的に検討すべき部分について事例をピックアップして詳しく調査をした上で、評価を行うこととしたところである。委員のご意見の趣旨は理解するが、例えば、契約地ごとに1等地が何%、2等地が何%と出すのは事務的に難しいものとする。

○委員

林業家というか、山の性質を知っている人はそういうものと理解すると思うが、一般の人が見た場合、「良い山は全くない。」と誤解するのではないか。

○事務局

平均値に対応する地位だけ示していることで、全てが悪い山との印象を与えてしまうとすれば、地位についても、1等地から2等地というように範囲で示すことでどうか。

○委員

その方がいいと思う。

- ・ 今年度の事例調査について説明。

[意見交換]

○事務局

基本的には昨年度と同様のやり方で、事例については、

昭和39年度から昭和54年度までの契約地のうち森林調査実施地を対象として、生育の遅れている林分及び広葉樹林化している林分の率が10%以上の地区のある整備局から、それぞれの典型例を1例ずつ

昭和39年度から昭和54年度までの契約地のうち森林調査未済地を対象として、生育の遅れている林分及び広葉樹林化している林分の率が10%以上の地区のある整備局から、それぞれの典型例を1例ずつ

昭和59年度から平成11年度までの契約地を対象として、生育の遅れている林分及び広葉樹林化している林分の率が10%以上の地区のある整備局から、それぞれの典型例を1例ずつ

昭和59年度から平成11年度までの契約地を対象として、新植、下刈、除伐の作業別に標準的な単価より3割以上高い単価の面積比率が30%以上、又は、当該面積が1,000ヘクタール以上ある整備局から、典型例を1例選ぶことで進めさせていただきたい。

○委員

事務局から説明のあった今年度の事例調査のやり方等についてはいかがか。

○委員

(異議なし)

- ・ 資料5により、今年度の地元及び森林づくりボランティア団体へのアンケート調査について説明。

[意見交換]

○事務局

基本的には昨年度と同様のやり方とし、地元へのアンケートは、48地区ごとに、市町村、土地所有者、造林者からそれぞれ10人・団体は無作為に選び、森林づくりボランティア団体へのアンケートは、昨年度回答のあった110団体と、

これに森林づくりボランティア活動を積極的に行っている団体をいくつか加えて、実施したいと考えている。

○委員

事務局から説明のあった今年度の地元及び森林づくりボランティア団体へのアンケート調査についてはいかがか。

○委員

資料５の２ページの問４の部分で、「ア 改植の必要なところがある」とあるが、造林者や市町村の担当者はわかると思うが、何か説明を付けないとわかりづらいのではないか。間伐や獣害、病虫害は分かると思うが、改植はやはり専門的な言葉である。

○事務局

そこは、分かりやすくなるように説明等を加えて出すこととしたい。

・ 今年度の現地調査について説明

[意見交換]

○事務局

今年度の現地調査については、昨年度と同様に、事例調査実施箇所の中から選定したいと考えている。具体的な現地調査箇所は、座長と相談させていただく中で決めさせていただきたい。特に、このような箇所を見るべき等の意見があれば承りたい。

○委員

事務局から説明のあった今年度の現地調査についてはいかがか。

○委員

(異議、意見なし)

○委員

それでは、これまでの結果も踏まえて考えていきたいと思う。

・ 今年度の地元意見聴取について説明。

[意見交換]

○事務局

今年度の地元意見聴取については、昨年度と同様に、現地調査実施箇所に関係する都道府県、市町村、造林者、造林地所有者、さらには受益者から意見聴取を行いたいと考えている。具体の人選については、事務局で調整させていただきたい。

○委員

事務局から説明のあった今年度の地元意見聴取についてはいかがか。

○委員

(異議なし)

- ・ 次回の予定について説明。

[意見交換]

○事務局

次回の第2回委員会は地方で開催し、委員会に先立って現地調査及び地元からの意見聴取を行いたいと考えている。

○委員

事務局から説明のあった次回の予定についてはいかがか。

○委員

(異議なし)

○委員

本日の議論の中で、次回までに検討・整理することとされたものについては、事務局で検討の上、次回報告願う。 本日の委員会はこれで終了とする。